P. INT COOPERATION TREA

From the INTERNATIONAL BUREAU **PCT** NOTIFICATION OF ELECTION **Assistant Commissioner for Patents** United States Patent and Trademark (PCT Rule 61.2) Office **Box PCT** Washington, D.C.20231 **ETATS-UNIS D'AMERIQUE** Date of mailing (day/month/year) in its capacity as elected Office 29 August 2000 (29.08.00) International application No. Applicant's or agent's file reference PCT/JP00/00210 661728 International filing date (day/month/year) Priority date (day/month/year) 19 January 2000 (19.01.00) 22 January 1999 (22.01.99) **Applicant** IWANAGA, Kiyoshi et al 1. The designated Office is hereby notified of its election made: X in the demand filed with the International Preliminary Examining Authority on: 44.7 10 August 2000 (10.08.00) in a notice effecting later election filed with the International Bureau on: 2. The election was not made before the expiration of 19 months from the priority date or, where Rule 32 applies, within the time limit under Rule 32.2(b).

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland Authorized officer

Henrik Nyberg

Telephone No.: (41-22) 338.83.38

Facsimile No.: (41-22) 740.14.35

THIS PAGE BLANK (USPTO)

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

			PCI/C	1200/00210
A. CLASSI	FICATION OF SUBJECT MATTER C1 C01B 7/04, B01J 23/46		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
According to	International Patent Classification (IPC) or to both	national classification and	IPC	
	SEARCHED			
Minimum dod Int. (cumentation searched (classification system follows C1 ⁷ C01B 7/04, B01J 23/46	ed by classification symbo	ls)	
	2010 23, 10			
Jitsu	on searched other than minimum documentation to the yo Shinan Koho 1926-1996	he extent that such docum	ents are included	in the fields searched Koho 1994-2000
Kokai	Jitsuyo Shinan Koho 1971-2000		an Toroku I	Koho 1994-2000
Electronic dat	a base consulted during the international search (na			
JOIS,	WPI/L(DIALOG)	·	,	*
		•		
C DOCUM	ENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	***************************************		
Category*	Citation of document, with indication, where			Relevant to claim No
1	EP, 861803, A1 (AIR PRODUCTS A 02 September, 1998 (02.09.98),	ND CHEMICALS, I	INC.),	1-5,12
. 1	page 2, line 3 to page 4, line 2	; page 7, lines	11 to 18;	6-11
	page 8, Table 1 & JP, 10-251002, A			
	page 3, column 4, line 6 to page	ge 5, column 8,	line 31;	
1	page 8, column 14, line 47 to pa page 10, Table 2	ge 9, column 15,	line 12;	
	CA, 2229993, A & KR, 9807	71631, A		
Y	EP, 761593, A1 (BASF AKTIENGES	ጀ፤.፤.ዴሮሄልድጥነ	-	<i>.</i>
[]	l2 March, 1997 (12.03.97)			6-9,11
	page 7, line 26 to page 8, line page 12, line 57	e 2; page 11, 1	ine 12 to	
8	JP, 9-118503, A			
2	page 6, column 10, lines 10-50; 27 to page 11, column 20, line	page 9, column	16, line	
8	DE, 19533660, A & KR, 9701	5457, A		
Y W	O, 97/11026, A1 (UNIVERSITY O	F SOUTHERN		
1.0	ALIFORNIABASF AKTIENGESELLSCH	AFT),		1-5
	7 March, 1997 (27.03.97),			
	ocuments are listed in the continuation of Box C.	See patent family		
A" document	egories of cited documents: defining the general state of the art which is not	"T" later document publi priority date and not	shed after the inter	national filing date or application but cited to
E"— earlier doc	to be of particular relevance ument but published on or after the international filing	understand the princi	iple or theory unde	rlying the invention
date L" document	which may throw doubts on priority claim(s) or which is	considered novel or o step when the docum	cannot be considere	ed to involve an inventive
special reas	ablish the publication date of another citation or other son (as specified)	"Y" document of particul	ar relevance; the cl	aimed invention cannot be when the document is
means	referring to an oral disclosure, use, exhibition or other	combined with one o	r more other such a	locuments such
P" document p than the pri	published prior to the international filing date but later orty date claimed	combination being of document member of	the same patent fa	samed in the art unily
ate of the actu	al completion of the international search	Date of mailing of the in	ternational searc	h report
28 Apr	il, 2000 (28.04.00)	16 May, 200	0 (16.05.	00)
lame and mail:	no oddoos of the 1904			
Japane	ng address of the ISA/ se Patent Office	Authorized officer		
acsimile No.				
e-minic (NI)		Telephone No.		

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00210

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant pass		
	page 3, line 32 to page 5, line 16; Fig.3	ages	Relevant to claim N
ļ	& JP, 11-511433, A		
	page 6, line 28 to page 8, line 21; Fig.3 & US, 5639436, A & & AU, 9672490, A	ĺ	
	& EP, 851834, A & NO, 9801288, A	ł	
Y	JP, 10-194705, A (Sumitomo Chemical Company, Limi	ited),	6-10
ļ	page 3, column 3, lines 14-40; page 6, column 9, 1-		
	to column 10, line 4 & DE, 19734412, A & US, 5908607, A		
.			
Y	<pre>JP, 10-15389, A (Mitsui Toatsu Chemicals Inc.), 20 January, 1998 (20.01.98),</pre>		11
i	page 3, column 3, lines 12-43 (Family: none)	1	
j			
		ŀ	
		İ	
	•	.	
		[
1			
		1	
	•		
	- 0.0	1	
		-	
İ		-	
		J	
		ĺ	
		ļ	
	W210 (continuation of second sheet) (July 1992)		

発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. Cl C01B 7/04, B01J 23/46

調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C01B 7/04, B01J 23/46

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報

1926-1996

日本国公開実用新案公報

1971-2000

日本国登録実用新案公報

1994-2000

日本国実用新案登録公報

1996-2000

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JOIS, WPI/L (DIALOG)

l		
<u>C.</u> 関	連すると認められる文献	
引用文献 カテゴリ		関連する 請求の範囲の番号
XY	EP,861803,A1(AIR PRODUCTS AND CHEMICALS, INC.), 2.9月.1998,(02.09.98),第2頁第3行一第4頁第2行、 第7頁第11行一第18行、第8頁Table 1 & JP,10-251002, A,第3頁第4欄第6行一第5頁第8欄第31行,第8頁第14欄第47行 一第9頁第15欄第12行、第10頁表2 & CA,2229993,A & KR,98071631,A	1-5,12 6-11
Y	EP,761593,A1(BASF AKTIENGESELLSCHAFT), 12.3月.1997,(12.03.97),第7頁第26行一第8頁第2行、 第11頁第12行一第12頁第57行 & JP,9-118503,A, 第6頁第10欄第10行一第50行,第9頁第16欄第27行一第11頁 第20欄第18行 & DE,19533660,A	6-9,11
X C欄	D続きにも文献が列挙されている。	1 km +

も大阪か列争されている。

└ パテントファミリーに関する別紙を参照。

- 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献 (理由を付す)
- 「O」ロ頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの----
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 国際調査報告の発送日 28.04.00 1 6.05.0**0** 国際調査機関の名称及びあて先 特許庁審査官(権限のある職員) 4 G 8116 日本国特許庁 (ISA/JP) 山田 竲 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 3414

国	際調	査	報	告
---	----	---	---	---

国際出願番号 PCT/JP00/00210

C (続き) .	関連すると認められる文献	
引用文献の カテゴリー*		関連する
W/ - y-*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 & KR,97015457,A	請求の範囲の番号
Y	WO,97/11026, A1 (UNIVERSITY OF SOUTHERN CALIFORNIABASF AKTIENGESELLSCHAFT), 27.3月.1997, (27.03.97),第3頁第32行-第5頁第16行,Fig.3 & JP,11-511433, A,第6頁第28行-第8頁第21行,Fig.3 & US,5639436, A & AU,9672490, A & EP,851834, A & NO,9801288, A	1-5
Y	JP,10-194705,A(住友化学工業株式会社),25.7月.1997 (25.07.97),第3頁第3欄第14行-第40行、第6頁第9欄第31行 -第10欄第4行 & DE,19734412,A & US,5908607,A	6-10
Y	JP,10~15389,A(三井東圧化学株式会社),20.1月.1998 (20.01.98),第3頁第3欄第12行-第43行(ファミリーなし)	11
'		
.		*
		,
	•	,

PCT

国際予備審查報告

REC'D 0 4 MAY 2001

(法第12条、法施行規則第56条) (PCT36条及びPCT規則70)

出願人又は代理人	今後の手続きについては、国際予備審	査報告の送付通知(様式PCT/
の書類記号 661728	IPEA/	'416)を参照すること。
国際出願番号	国際出願日	優先日
PCT/JP00/00210	(日.月.年) 19.01.00	(日.月.年) 22.01.99
国際特許分類 (IPC) Int.Cl ⁷ C01B 7/04,	B01J 23/46	
出願人 (氏名又は名称) 住友化学工業株式会社		

	住久 化子工来 你只云红
1.	国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2.	この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で4 ページからなる。
-	この国際予備審査報告には、附属審類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細審、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。 (PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照) この附属審類は、全部で ページである。
3.	この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
	I X 国際予備審査報告の基礎
	II 優先権
	Ⅲ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
	IV
٠.	V X 1 3 5条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてめ見解、それを裏付けるため の文献及び説明
	VI
	VII 国際出願の不備
	VII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 10.08.00	国際予備審査報告を作成した日 18.04.01
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 4G 8116
郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	山田靖
	電話番号 03-3581-1101 内線 3414

Ι.	1	除予備審查 報	最告の基礎			
1.	ĸ	の国際予備報答するために CT規則70.	と提出された差し替え用紙は	基づいて作成され 、この報告書に	れた。(法第6条(PCT おいて「出願時」とし、本	14条)の規定に基づく命令に 報告書には添付しない。
	X	出願時の国際	発出願書類			
		明細書 明細書 明細書	第 第 ——————————————————————————————————	ページ、 ページ、 ページ、	出願時に提出されたもの 国際予備審査の請求書と	1
		請求の範囲 請求の範囲 請求の範囲 請求の範囲	第 第	項、 項、 項、 	出願時に提出されたもの PCT19条の規定に基 国際予備審査の請求書と	づき補正されたもの
		図面 図面	第 第 	ページ/図、 ページ/図、 ページ/図、	国際予備審査の請求書と	
		明細書の配列	刊表の部分 第 刊表の部分 第 刊表の部分 第	ページ、 ページ、 ページ、	出願時に提出されたもの 国際予備審査の請求書と	
2.	ل	- 記の出願書類	頂の言語は、下配に示す場合	を除くほか、こ	の国際出願の官語である。	
	١	上記の書類は、	下記の言語である	語であ	5.	÷
	[]]	PCT規	のために提出されたPCT類 則48.3(b)にいう国際公開の 審査のために提出されたP	官語		1
3.	- 2	の国際出願に	は、ヌクレオチド又はアミノ	酸配列を含んで:	おり、次の配列表に基づき	国際予備審査報告を行った。
	[[[[四国の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の	があった る配列表に記載した配列と があった。	キシブルディスク は調査を機関に抵 は調査)機関に抵 が出願時における	出された書面による配列を出されたフレキシブルデ の国際出願の開示の範囲を加	
4.		明細書	下記の 審類が削除された。 第 第 図面の第	ページ 項 ペー	ジ / 図	
5.	5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)					

v.	新規性、進歩性又は産業上の利用可能 文献及び説明	B性についての法第12条	(РСТЗ5条(2)) に	定める見解、それを裏付ける
1.	見解			
	新規性(N)	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	6-9, 11 1-5, 10, 12	
	進歩性(IS)	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	1-12	
	産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 請求の範囲 _	1-12	

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲1-5、12

国際調査報告で引用された文献1(EP,861803,A1(AIR PRODUCTS AND CHEMICALS, INC.),2.9月.1998,(02.09.98),第2頁第3行-第4頁第2行、第7頁第11行-第18行、第8頁Table 1)には、固定床にて塩化水素を酸化して塩素を製造する方法において、直列に配列され、触媒が充填された二つ以上の固定床を用いて塩化水素の酸化を行い、反応帯域には熱交換手段が設けられている、請求の範囲1-5、12に記載された発明が記載されている。

したがって、請求の範囲1-5、12に記載された発明は新規性を有しない。

請求の範囲6

文献1に記載された塩素の製造方法において、二つの固定床の第1の反応帯域の割合として全反応帯域の70体積%以下の値を選択し、請求の範囲6に記載された発明を構成することは、当業者が容易に想到し得るものと認められるから、請求の範囲6に記載された発明は進歩性を有しない。

請求の範囲7-9

文献1には、さらに、第1の固定床から第2の固定床に移行するにつれ加熱温度を高くしていくことが記載されており、また、塩化水素濃度及び酸素濃度が高い第1の反応帯域においてホットスポット温度が高く、上記成分の濃度が低くなる、それ以降の反応帯域においてホットスポット温度が低くなることは自明の事項であるから、反応帯域全体の温度分布を大きく変動させないとの観点より、請求の範囲7-9に記載された、反応帯域が進むにつれ、反応帯域の活性を順次高めたり、また、熱伝導度を第1反応帯域において高く設定し、順次低くなるように触媒の充填を調整することは、当業者が、文献1の記載等に基づき容易に想到し得たものと認められる。

したがって、請求の範囲7-9に記載された発明は進歩性を有しない。

請求の範囲10

文献1には、第2の固定床を、請求の範囲10に記載された発明と重複する温度範囲に加熱することが記載されており、また、国際調査報告で引用された文献4JP,10-

補充欄(いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V 欄の続き

194705, A(住友化学工業株式会社), 25.7月.1997(25.07.97), 第3頁第3欄 第14行-第40行、第6頁第9欄第31行-第10欄第4行)にも、塩化水素を酸素で酸化 し塩素を製造する際に、反応温度を200~380℃とすることが記載されているから、請求 の範囲10に記載された発明は、新規性及び進歩性を有しない。

請求の範囲11

文献5(JP,10-15389,A(三井東圧化学株式会社),20.1月.1998 (20.01.98),第3頁第3欄第12行-第43行)には、塩化水素を酸素で酸化し塩素を 製造する方法において、触媒床に供給する塩化水素のガス線速度として請求の範囲11 に記載された発明と重複する範囲のものを用いることが記載されているから、進歩性を有 しない。 а.

PCT

EP ·



国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 661728	• •	報告の送付通知様式(PCT/ISA/220) 5を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP00/00210	国際出願日 (日.月.年) 19.01.00	優先日 (日.月.年) 22.01.99
出願人(氏名又は名称) 住友化学エ	業株式会社	
国際調査機関が作成したこの国際調査 この写しは国際事務局にも送付される	査報告を法施行規則第41条(PCT18 る。	3条)の規定に従い出願人に送付する。
この国際調査報告は、全部で 3	ぺージである。	
この調査報告に引用された先行打	技術文献の写しも添付されている。	
	くほか、この国際出願がされたものに基 れた国際出願の翻訳文に基づき国際調	
b. この国際出願は、ヌクレオチト この国際出願に含まれる書	ド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の 面による配列表)配列表に基づき国際調査を行った。
□ この国際出願と共に提出さ	れたフレキシブルディスクによる配列	表
□ 出願後に、この国際調査機	関に提出された書面による配列表	
□出願後に、この国際調査機	関に提出されたフレキシブルディスク	による配列表
□出願後に提出した書面によ	る配列表が出願時における国際出願の	開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述
	た配列とフレキシブルディスクによる	配列表に記録した配列が同一である旨の陳述
書の提出があった。	. "	
2. 間 請求の範囲の一部の調査が	ができない(第 I 欄参照)。	
3. 党明の単一性が欠如してい	ゝる(第Ⅱ欄参照)。	* **
4. 発明の名称は 🗓 出願	質人が提出したものを承認する。	
	こ示すように国際調査機関が作成した。	والصابا بكانية للبدا والباجات
- mid-1.1. IV 1115	7 * ***** (tr.) . 1. 3 3. 73. 37. 1 y	
	賃人が提出したものを承認する。	
国際		別第47条(PCT規則38.2(b))の規定により D国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこ できる。
6. 要約費とともに公表される図は、		
第 図とする。 🗌 出願	種人が示したとおりである。	区 なし
□ 出願	負人は図を示さなかった。	
	14.5% FB & 2 #1	

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl C01B 7/04, B01J 23/46

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C01B 7/04, B01J 23/46

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報

1926-1996

日本国公開実用新案公報

1971-2000

日本国登録実用新案公報

1994-2000

日本国実用新案登録公報

1996-2000

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JOIS, WPI/L (DIALOG)

C. 関連すると認められる文献

71 77 -1 -+-		·
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	EP, 861803, A1 (AIR PRODUCTS AND CHEMICALS, INC.), 2.9月.1998, (02.09.98), 第2頁第3行一第4頁第2行、第7頁第11行一第18行、第8頁Table 1 & JP, 10-251002, A, 第3頁第4欄第6行一第5頁第8欄第31行, 第8頁第14欄第47行一第9頁第15欄第12行、第10頁表2 & CA, 2229993, A & KR, 98071631, A	1-5,12 6-11
Y	EP,761593,A1(BASF AKTIENGESELLSCHAFT), 12.3月.1997,(12.03.97),第7頁第26行一第8頁第2行、 第11頁第12行一第12頁第57行 & JP,9-118503,A, 第6頁第10欄第10行一第50行,第9頁第16欄第27行一第11頁 第20欄第18行 & DE,19533660,A	6-9,11

|X|| C欄の続きにも文献が列挙されている。

│ │ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献。

国際調査を完了した日

28.04.00

国際調査報告の発送日

1 6.05.00

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁(ISA/JP) 郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員) 山 田 靖

4G | 8116

電話番号 03-3581-1101 内線 3414

	国际网直报告 国际口	D.関番号 PCI/JPU 	0/00210
C (続き).	関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その	D関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
	& KR, 97015457, A		
Y	WO,97/11026,A1(UNIVERSITY OF SOU CALIFORNIABASF AKTIENGESELLSCHAFT), (27.03.97),第3頁第32行一第5頁第16行, & JP,11-511433,A,第6頁第28行一第8 & US,5639436,A & AU,9672490, & EP,851834,A & NO,9801288,A	. 27. 3月. 1997, Fig. 3 頁第21行, Fig. 3 A	1-5
Y	JP,10-194705,A(住友化学工業株式会社) (25.07.97),第3頁第3欄第14行-第40行、 -第10欄第4行	第6頁第9欄第31行	6-10
	& DE,19734412,A & US,5908607	1	
Y .	JP,10-15389,A(三井東圧化学株式会社),2 (20.01.98),第3頁第3欄第12行-第43行(フ	20.1月.1998 ファミリーなし)	11
		*	•
•			
	organ AMALIN adays alma		
	Wind Teleson and Market and Market and Angel Community and the second and the sec		
			*
		F	
		8	
		· · ·	
		- X	
		¥	
		•	
	*		· ·
<u>.</u>			
		7.	
•			
	*	•	,
•			

THIS PAGE BLANK (USPTO)

PCT

123,24

NOTIFICATION CONCERNING HIS SUBMISSION OR TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT

(PCT Administrative Instructions, Section 411)

From the INTERNATIONAL BUREAU

To:

AOYAMA, Tamotsu Aoyama & Partners Imp Building, 3-7, Shiromi 1chome, Chuo-ku Osaka-shi, Osaka 540-0001 JAPON

Date of mailing (day/month/year) 13 March 2000 (13.03.00)	
Applicant's or agent's file reference 661728	IMPORTANT NOTIFICATION
International application No. PCT/JP00/00210	International filing date (day/month/year) 19 January 2000 (19.01.00)
International publication date (day/month/year) Not yet published	Priority date (day/month/year) 22 January 1999 (22.01.99)

Applicant

SUMITOMO CHEMICAL COMPANY, LIMITED et al

- 1. The applicant is hereby notified of the date of receipt (except where the letters "NR" appear in the right-hand column) by the International Bureau of the priority document(s) relating to the earlier application(s) indicated below. Unless otherwise indicated by an asterisk appearing next to a date of receipt, or by the letters "NR", in the right-hand column, the priority document concerned was submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b).
- 2. This updates and replaces any previously issued notification concerning submission or transmittal of priority documents.
- 3. An asterisk(*) appearing next to a date of receipt, in the right-hand column, denotes a priority document submitted or transmitted to the International Bureau but not in compliance with Rule 17.1(a) or (b). In such a case, the attention of the applicant is directed to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.
- 4. The letters "NR" appearing in the right-hand column denote a priority document which was not received by the International Bureau or which the applicant did not request the receiving Office to prepare and transmit to the International Bureau, as provided by Rule 17.1(a) or (b), respectively. In such a case, the attention of the applicant is directed to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.

Priority date

Priority application No.

Country or regional Office or PCT receiving Office

Date of receipt of priority document

22 Janu 1999 (22.01.99)

11/14236

JΡ

29 Febr 2000 (29.02.00)

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland Authorized officer

Taïeb Akremi

Telephone No. (41 22) 238 83 38

THIS PAGE BLANK (USPTO)

世界知的所有権機関 国際 事務 局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願



(51) 国際特許分類7

C01B 7/04, B01J 23/46

A1 (11

(11) 国際公開番号

WO00/43313

(43) 国際公開日

2000年7月27日(27.07.00)

(21) 国際出願番号

PCT/JP00/00210

(22) 国際出願日

2000年1月19日(19.01.00)

(30) 優先権データ

特願平11/14236

1999年1月22日(22.01.99) ...

(71) 出願人(米国を除くすべての指定国について) 住友化学工業株式会社

(SUMITOMO CHEMICAL COMPANY, LIMITED)[JP/JP] 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 Osaka, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

岩永清司(IWANAGA, Kiyoshi)[JP/JP]

〒266-0016 千葉県千葉市緑区椎名崎町741 Chiba, (JP)

鈴田哲也(SUZUTA, Tetsuya)[JP/JP]

〒299-0125 千葉県市原市有秋台西1-9-841 Chiba, (JP)

森 康彦(MORI, Yasuhiko)[JP/JP]

〒792-0025 愛媛県新居浜市一宮町2-3-738 Ehime, (JP)

吉井政之(YOSHII, Masayuki)[JP/JP]

〒299-0125 千葉県市原市有秋台西1-9-248 Chiba, (JP)

(74) 代理人

脊山 葆,外(AOYAMA, Tamotsu et al.) 〒540-0001 大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号

IMPビル 骨山特許事務所 Osaka, (JP)

(81) 指定国 AE, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM)

添付公開書類

国際調査報告書

請求の範囲の補正の期限前の公開;補正書受領の際には再公 開される。

(54) Title: METHOD FOR PRODUCING CHLORINE

(54)発明の名称 塩素の製造方法

(57) Abstract

In a method for producing chlorine comprising oxidizing hydrogen chloride present in a gas containing the hydrogen chloride using a gas containing oxygen in the presence of a catalyst, an improvement which comprises conducting the oxidation of the hydrogen chloride in a reaction region comprising at least two catalyst-packed layers connected in series and carrying out the temperature control of at least one reaction region using a heat exchange system is disclosed. This method enables the inhibition of formation of excess hot spots and effective utilization of the catalyst-packed layers, which results in maintaining stable activity of the catalyst and in the production of chlorine in high yield with good stability.

þ

(21/24/1)

触媒の存在下、塩化水素を含むガス中の塩化水素を、酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造方法において、塩化水素の酸化を、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域において行い、かつ該反応域のうちの少なくとも一つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行う。この製造方法によれば、触媒充填層の過度のホットスポットを抑制し、触媒充填層を有効に活用することができるので、触媒の安定した活性が維持され、かつ塩素を安定して高収率で得ることができる。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報) アラブ首長国連邦 アンティグア・バーブーダ アルバニア ΚZ カザフスタン ガッノへラン セントルシュ リヒテンシュタイン スリ・ランカ リベリア A G ĻÇ スウェーデンシンガポールスロヴェニア AM アルメニア AT オーストリア AU オーストラリア AZ アゼルバイジャン BA ボズニア・ヘルツェゴビナ BB バルバドス S G S I ソイソノ レソト リトアニア スロヴァキア シエラ・レオネ G A G B レー リト/ニア LU ルクセンブルグ LV ラトヴィア MA モロッコ MC モナコ 英国 グレナダグルジアガーナ スワジランド チャード トーゴー タジキスタン ベルギー MA MC MD BE T G T J ガンピア ギニア ΒG B J B R B Y GGGGHHIIE ドンファンボーシンル フェリニロンンイスンイタ本ニル朝国 ドスンイタ本ニル朝国 ドスンイタ本ニル朝国 ドスリーアイボウエーファンボーシンル ドスンイタ本ニル朝国 ドスリーアイロケキ北韓 ドスンイタ本ニル朝国 マダガスカル マケドニア旧ユーゴスラヴィア GN MG MK トルクメニスタン トルファーへァントリニーダッド・トバゴトリニダッド・トバゴタンデニア ウクライナウガンダ TR TT TZ CA カナダフ CF 中央ブラ CG スイト ML マリ MN モンゴル MR モーリタニア MW マラウイ MX メキシコ MZ モデンビーク ÜĀ US 米国 UZ ウズベキスタン VN ヴェトナム YU ユーゴースラヴィア コートジボアール CM CN CR カメルーン M 2 セサジェーク N E エジェール N L オランダ N O ノールウェー N Z ニューランド P L ポーランド P T ポルトガル 中国 コスタ・リカ ・こ ニースフリイ 2A 南アフリカ共和国 2W ジンパブエ CY ニキオティン・バスコードイン・バスロードイン・ DK デンマーク RO ルーマニア

17

5

10

15

20

1

明 細 書

塩素の製造方法

技術分野

本発明は、塩素の製造方法に関するものである。更に詳しくは、本発明は、塩 化水素を含むガス中の塩化水素を、酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造 方法に関するものである。

背景技術

塩素は、塩化ビニル、ホスゲンなどの原料として有用であり、塩化水素の酸化によって得られることもよく知られている。たとえば、塩化水素を触媒の存在下に分子状酸素で接触酸化し、塩素を製造する方法が知られているが、この方法においては、Deacon触媒と呼ばれる銅系の触媒が優れた活性を有するとされ、塩化銅と塩化カリウムに第三成分として種々の化合物を添加した触媒が多数提案されている。また、Deacon触媒を用いる方法以外にも、酸化クロム又はこの化合物を触媒として用いる方法、酸化ルテニウム又はこの化合物を触媒として用いる方法も提案されている。

しかしながら、塩化水素の酸化反応は59kJ/mol-塩素の発熱反応であるので、触媒充填層での過度のホットスポットを抑制することは、触媒の熱劣化を低減し、運転の安定性及び容易性を確保する観点からも重要である。また、過度のホットスポットは、最悪の場合には暴走反応を引き起こすこともあり、塩化水素及び/又は塩素による装置材料の高温ガス腐食を起こす問題もある。

雑誌「触媒」(Vol. 33 No. 1 (1991))には、酸化クロムを触媒とした純塩化水素と純酸素の反応では、固定床反応形式ではホットスポットの除去が困難であり、実装置では流動床反応器の採用が必要であることが記載されている。

25 発明の開示

かかる状況において、本発明の目的は、塩化水素を含むガス中の塩化水素を、 酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造方法であって、触媒充填層の過度の ホットスポットを抑制し、触媒充填層を有効に活用することによって、触媒の安 定した活性が維持され、かつ塩素を安定して高収率で得ることができ、よって触 媒コスト、設備コスト、運転コスト、運転の安定性及び容易性の観点から極めて 有利な塩素の製造方法を提供することである。

この目的は、本発明によれば、触媒の存在下、塩化水素を含むガス中の塩化水素を、酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造方法であって、塩化水素の酸化を、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域において行い、かつ該反応域のうちの少なくとも一つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行う塩素の製造方法により達成される。

発明の実施の形態

5

10

15

20

25

本発明において用いられる塩化水素を含むガスとしては、塩素化合物の熱分解 反応や燃焼反応、有機化合物のホスゲン化反応、脱塩化水素反応又は塩素化反応、 焼却炉の燃焼等において発生した塩化水素を含むいかなるガスをも使用すること ができる。

塩化水素を含むガス中の塩化水素の濃度は、通常10体積%以上、好ましくは50体積%以上、更に好ましくは80体積%以上である。塩化水素の濃度が10体積%よりも低い場合には、生成した塩素の分離、及び/又は未反応酸素をリサイクルする場合に、リサイクルが煩雑になることがある。

塩化水素を含むガス中の塩化水素以外の成分としては、オルトジクロロベンゼン、モノクロロベンゼン等の塩素化芳香族炭化水素;トルエン、ベンゼン等の芳香族炭化水素;塩化ビニル、1,2ージクロロエタン、塩化メチル、塩化エチル、塩化プロピル、塩化アリル等の塩素化脂肪族炭化水素;メタン、アセチレン、エチレン、プロピレン等の脂肪族炭化水素;窒素、アルゴン、二酸化炭素、一酸化炭素、ホスゲン、水素、硫化カルボニル、硫化水素等の無機ガスがあげられる。塩化水素と酸素との反応において、塩素化芳香族炭化水素及び塩素化脂肪族炭化水素は、二酸化炭素と水と塩素に酸化され、芳香族炭化水素及び脂肪族炭化水素は、二酸化炭素と水に酸化され、一酸化炭素は二酸化炭素に酸化され、ホスゲンは、二酸化炭素と塩素に酸化される。

酸素を含むガスとしては、酸素又は空気が使用される。酸素は、空気の圧力スイング法や深冷分離などの通常の工業的な方法によって得ることができる。

塩化水素1モルを酸化するのに要する酸素の理論モル量は0.25モルである

•

5

10

15

20

25

が、理論量以上供給することが好ましく、塩化水素1モルに対し酸素0.25~2モルが更に好ましい。酸素の量が過小であると、塩化水素の転化率が低くなる場合があり、一方酸素の量が過多であると生成した塩素と未反応酸素の分離が困難になる場合がある。

本発明においては、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域に、酸素を含むガスを分割して導入することが好ましい。酸素を含むガスを分割して導入する方法としては、塩化水素を含むガスの全量と、酸素を含むガスの一部分を第1反応域に導入し、その反応物と残りの酸素を含むガスを第2反応域以降の反応域に導入する方法があげられる。ここで、第1反応域は原料ガスが最初に導入される反応域を意味し、第2反応域は第1反応域の次に原料ガスが導入される反応域を意味する。第1反応域に導入される酸素を含むガスの分割量は、全体量の5~90%、好ましくは10~80%、更に好ましくは30~60%である。第1反応域に導入される酸素の割合が少なすぎる場合は、第2反応域以降の反応域の温度制御が困難になることがある。

本発明においては、反応域のうちの少なくとも一つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行う必要がある。このことにより、反応域の過度のホットスポットを抑制し、反応域を有効に活用することによって、触媒の安定した活性が維持され、かつ塩素を安定して高収率で得ることができるため、触媒コスト、設備コスト、運転コスト、運転の安定性及び容易性を確保しうる。

少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域は、反応管内に 少なくとも二種の触媒を充填すること、及び/又は少なくとも2つの反応域において温度を独立して制御することによって形成される。ここで、触媒充填層からなる反応域は、固定床反応器を形成するものであり、流動層反応器及び移動層反応器を形成するものではない。少なくとも二種の触媒を充填する方法としては、反応管内の触媒充填層を管軸方向に少なくとも二つの区分に分割して、活性、組成及び/又は粒径の異なる触媒を充填する方法、又は触媒を不活性物質及び/又は担体のみで成型した充填物で希釈率を変えて希釈して充填する方法、又は触媒と、触媒を不活性物質及び/又は担体のみで成型した充填物で希釈したものとを

充填する方法をあげることができる。触媒を不活性物質及び/又は担体のみで成

†-

型した充填物で希釈した場合は、充填された触媒と不活性物質及び/又は担体のみで成型した充填物の全体が、触媒充填層からなる反応域を意味する。

通常、連続する反応域は直接に接している状態にあるが、反応域の間に不活性 物質を充填してもよい。ただし、不活性物質のみからなる充填層は、触媒充填層 とは見なさない。

5

10

15

20

25

触媒充填層からなる少なくとも二つの反応域の温度を独立して制御する方法としては、少なくとも二つの独立した方式で温度制御を行う方法をあげることができる。この場合、少なくとも一つの方式の温度制御は、熱交換方式で行う必要がある。

本発明の熱交換方式とは、触媒が充填された反応管の外側にジャケット部を設け、反応で生成した反応熱をジャケット内の熱媒体によって除去する方式を意味する。熱交換方式では、反応管内の触媒充填層からなる反応域の温度が、ジャケット内の熱媒体によって制御される。工業的には、直列に配列された触媒充填層からなる反応域を有する反応管を並列に配列し、外側にジャケット部を有する多管式熱交換器型の固定床多管式反応器を用いることもできる。熱交換方式以外の方法としては、電気炉方式があげられるが、反応域の温度制御が難しいといった問題がある。

本発明においては、反応域のうちの少なくとも二つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行うことが好ましい。この方法としては、少なくとも二つの独立したジャケット部に、独立に熱媒体を循環させてそれぞれの反応域の温度制御を行う方法、及び/又は仕切り板によってジャケット部を少なくとも二つの領域に分割して、仕切られた部分に独立して熱媒体を循環させてそれぞれの反応域の温度制御を行う方法をあげることができる。仕切り板は、反応管に溶接などにより直接固定されていてもよいが、仕切り板や反応管に熱的な歪みが生じることを防ぐために、実質的に独立して熱媒体を循環できる範囲内において、仕切り板と反応管との間に適当な間隔を設けることができる。ジャッケト内の熱媒体は、その中に空隙が生成しないように、例えば、熱媒体の流れは、下方から上方に流れるようにするのが好ましい。

本発明においては、全反応域の温度制御を熱交換方式によって行う方法が、反

j

5

10

15

20

25

4

応熱が良好に除去され、運転の安定性及び容易性が確保されるために、好ましい。 熱媒体としては、溶融塩、スチーム、有機化合物又は溶融金属をあげることが できるが、熱安定性や取り扱いの容易さ等の点から溶融塩又はスチームが好まし く、より良好な熱安定性の点から溶融塩が更に好ましい。溶融金属は、コストが 高く、取り扱いが難しいといった問題がある。溶融塩の組成としては、硝酸カリ ウム50重量%と亜硝酸ナトリウム50重量%の混合物、硝酸カリウム53重 量%と亜硝酸ナトリウム40重量%と硝酸ナトリウム7重量%の混合物などをあ げることができる。有機化合物としては、ダウサムA(ジフェニルオキサイドと ジフェニルの混合物)をあげることができる。

反応域の数は多くするほど、該反応域を有効に利用することができるが、工業的には通常2~20反応域、好ましくは2~8反応域、更に好ましくは2~4反応域で実施される。該反応域が多すぎる場合は、充填する触媒の種類が多くなる、及び/又は温度制御のための機器が多くなるといったことがあり、経済的に不利になることがある。

本発明においては、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域の、第1反応域の割合を、全反応域の合計の70体積%以下とすることが好ましく、30体積%以下が更に好ましい。また、第1反応域の割合を70体積%以下、好ましくは30体積%以下とし、かつ第2反応域の温度を第1反応域よりも通常は少なくとも5℃、好ましくは少なくとも10℃高くする、又は第1反応域の割合を70体積%以下、好ましくは30体積%以下とし、かつ第2反応域の活性が第1反応域よりも通常は少なくとも1.1倍、好ましくは少なくとも1.5倍高くする、又は第1反応域の割合を70体積%以下、好ましくは30体積%以下とし、かつ第2反応域の温度を第1反応域よりも通常は少なくとも5℃、好ましくは少なくとも1.1倍、好ましくは少なくとも5℃、好ましくは少なくとも1.1倍、好ましくは少なくとも1.5倍高くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填することが更に好ましい。ここで、反応域の活性(mol-HC1/ml-反応域・min)とは、単位触媒重量及び単位時間当りの塩化

水素反応活性 (mol-HCl/g-触媒・min) と触媒充填量 (g) の積を、反応

域の体積 (ml) で除した値を意味する。単位触媒重量及び単位時間当りの塩化水素反応活性は、触媒の体積と標準状態 (0℃、0.1MPa) における塩化水素の供給速度との比が4400~4800h⁻¹で、塩化水素1モルに対し酸素0.5モルを供給し、反応圧力0.1MPa、反応温度280℃で反応させ、この時に生成した塩素量から計算される値である。

5

10

15

20

25

第1反応域では、反応物質である塩化水素と酸素の濃度が高いために反応速度が大きく、該第1反応域の入口側にホットスポットが生じる。一方、該第1反応域の出口側はジャケット内の熱媒体の温度に近い温度となる。第1反応域の割合が70体積%より大きい場合には、該反応域において、ジャケット内の熱媒体の温度に近い温度の触媒充填層部分が多くなり、触媒を有効に活用することができない。

本発明の酸化反応の触媒としては、塩化水素を酸化して塩素を製造する際に用いられている既知の触媒を用いることができる。そのような触媒の例として、塩化銅と塩化カリウムに第三成分として種々の化合物を添加した触媒、酸化クロムを主成分とする触媒、酸化ルテニウムを含有する触媒などをあげることができる。中でも酸化ルテニウムを含有する触媒が好ましく、酸化ルテニウム及び酸化チタンを含む触媒が更に好ましい。酸化ルテニウムを含む触媒は、たとえば特開平10-182104号公報、ヨーロッパ特許第936184号公報に記載されている。酸化ルテニウム及び酸化チタンを含む触媒は、たとえば、特開平10-194705号公報、特開平10-338502号公報に記載されている。触媒中の酸化ルテニウムの含有量は、0.1~20重量%が好ましい。酸化ルテニウムの量が過小であると触媒の活性が低く塩化水素の転化率が低くなる場合があり、一方、酸化ルテニウムの量が過多であると触媒価格が高くなる場合がある。

触媒の形状は、球形粒状、円柱形ペレット状、押し出し形状、リング形状、ハニカム状あるいは成型後に粉砕分級した適度の大きさの顆粒状等、従来用いられている触媒の形状であってよい。この際、触媒の大きさ(サイズ)としては10mm以下が好ましい。触媒の大きさが10mmを越えると、活性が低下する場合がある。触媒の大きさの下限は特に制限されないが、過度に小さくなると、触媒充填層での圧力損失が大きくなるため、通常は0.1mm以上のものが用いられ

į

5

10

15

20

25

4

る。なお、ここでいう触媒の大きさとは、球形粒状では球の直径、円柱形ペレット状では断面の直径、その他の形状では断面の最大寸法を意味する。

本発明においては、第1反応域の熱伝導度が最も高くなるように、実質的に触媒と 媒のみ、実質的に触媒と不活性物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と 不活性物質と担体を充填することが好ましく、第1反応域から最終反応域に向かって、ガスの流れ方向に、反応域の熱伝導度が順次低くなるように充填すること が更に好ましい。ここで、最終反応域は原料ガスが最後に導入される反応域を意味する。 尿中る。反応域の熱伝導度は、反応域に充填された充填物の熱伝導度を意味する。 原料の入口側の反応域では、反応物質である塩化水素と酸素の濃度が高いために 反応速度が大きく、酸化反応による発熱が大きい。したがって、入口側の反応域 に熱伝導度が比較的高い触媒を充填することにより、触媒充填層の過度なホット スポットを抑制することができる。

本発明においては、第1反応域から最終反応域に向かって、ガスの流れ方向に、 反応域の活性が順次高くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性 物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填するこ とにより、連続する反応域の温度差を小さくすることができ、したがって、運転 を安定して容易に行うことができるために好ましい。

本発明においては、最終反応域の活性を、その直前の反応域の活性よりも高くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填し、かつ最終反応域のホットスポットを、その直前の反応域のホットスポットよりも低くする方法が好ましい。最終反応域の活性がその直前の活性よりも低く、かつ最終反応域のホットスポットがその直前の反応域のホットスポットよりも高い場合は、塩化水素を酸素で酸化して塩素と水に変換する反応が平衡反応であるために、塩化水素の転化率が化学平衡組成に支配されて低くなる場合がある。

触媒の使用量(体積)は、標準状態(0° 、0.1 MPa)における塩化水素の供給速度との比(GHSV)で表すと、通常 10° 20000 h° 1となるように選択される。原料を反応域に流す方向は、特に限定されず、上向きでも下向きでもよい。反応圧力は、通常 0.1° 5 MPaである。反応温度は、好ましくは

i

ŕ

Ą

200~500℃、更に好ましくは200~380℃である。反応温度が低すぎる場合は、塩化水素の転化率が低くなる場合があり、一方反応温度が高すぎる場合は、触媒成分が揮発する場合がある。

本発明においては、最終反応域の出口のガス温度を200~350℃とするのが好ましく、200~320℃とするのが更に好ましい。最終反応域の出口のガス温度が350℃よりも高い場合は、塩化水素を酸素で酸化して塩素と水に変換する反応が平衡反応であるために、塩化水素の転化率が化学平衡組成に支配されて低くなる場合がある。

本発明においては、空塔基準のガス線速度を $0.2\sim10\,\mathrm{m/s}$ とすることが好ましく、 $0.2\sim5\,\mathrm{m/sec}$. が更に好ましい。ガス線速度が低すぎる場合は、工業用反応装置で塩化水素の満足いく処理量を得るためには、過剰数の反応管が必要とされるので不利益である場合があり、ガス線速度が高すぎる場合は、触媒充填層の圧力損失が大きくなる場合がある。なお、本発明の空塔基準のガス線速度とは、標準状態 $(0\,^\circ\mathrm{C},0.1\,\mathrm{MPa})$ における塩化水素を含むガスと酸素を含むガスの供給速度の合計と反応管の断面積の比を意味する。

反応管の内径は、通常10~50mm、好ましくは10~40mm、更に好ましくは10~30mmである。反応管の内径が小さすぎる場合は、工業用反応装置で塩化水素の満足いく処理量を得るためには、過剰数の反応管が必要とされるので不利益である場合があり、反応管の内径が大きすぎる場合は、触媒充填層に過度のホットスポットを生じさせる場合がある。

反応管の内径 (D) と触媒の大きさ (d) の比率 (D/d) は、通常 $5/1\sim 100/1$ 、好ましくは $5/1\sim 50/1$ 、更に好ましくは $5/1\sim 20/1$ である。比率が小さすぎる場合は、触媒充填層に過度のホットスポットを生じさせる場合があり、比率が大きすぎる場合は、触媒充填層の圧力損失が大きくなる場合がある。

実施例

5

10

15

20

25

以下、本発明を実施例により説明する。

実施例1

反応器には、溶融塩(硝酸カリウム/亜硝酸ナトリウム=1/1重量比)を熱

5

10

15

20

25

٦,

媒体とするジャケットを備えた内径18mm及び長さ1mの反応管(外径5mmの温度測定用鞘管)からなる固定床反応器を用いた。

反応管の上部側に、直径 1.5 mmの $\alpha - \text{Al}_2 \text{O}_3$ 担持 $6.6 \text{ 重量%酸化ルテ = ウム押し出し触媒 <math>80.2 \text{ g}$ (60.0 ml)を充填し、第 1 反応域とした。なお、この触媒として、塩化水素の酸化反応に約 260 時間使用したものを再使用した。

第1反応域の下部側に、直径1~2mmのアナターゼ結晶形 TiO_2 担持6. 6重量%酸化ルテニウム球形粒状触媒35.9g(35.6ml)と、直径2mmの $\alpha-AI_2O_3$ 球(ニッカト(株)製、SSA995)37.6g(17.8ml)を十分に混合して充填し、第2反応域とした。

触媒充填長は、第1反応域0.280m、第2反応域0.235mであった。 触媒充填体積は、第1反応域66ml、第2反応域55mlで、第1反応域の割 合は54体積%と計算される。

直径 1. $5 \, \text{mm} \, \text{o} \, \alpha - \text{A} \, \text{I}_2 \, \text{O}_3$ 担持 6. $6 \, \text{重} \, \text{量%酸化ルテニウム押し出し触媒}$ は、次の方法により調製した。すなわち、市販の $\alpha - \text{A} \, \text{I}_2 \, \text{O}_3$ 粉末(住友化学 (株) 製、AES-12)と塩化ルテニウムと純水及びアルミナゾル(日産化学 (株) 製、アルミナゾル 2 0 0)をよく混合した。混合したものに室温で乾燥空気を吹きかけ、適当な粘度になるまで乾燥させた。この混合物を直径 1. $5 \, \text{mm} \, \text$

また、本実施例で用いた $\alpha-A$ I_2 O_3 担持 6 . 6 重量%酸化ルテニウム押し出し触媒の単位触媒重量及び時間当りの塩化水素反応活性は 1 . 3×10^{-4} molーHC 1/g ー触媒・minであり、以下の方法で測定した。内径 1 4 mmのパイレックスガラス製反応管(外径 4 mmの温度測定用鞘管)に触媒を 4 . 0 g (3.3 m 1) 充填し、温度 2 8 0 ∞ の溶融塩バス中に入れ、塩化水素 0 . 2 6 1/ min(標準状態)、酸素 0 . 1 3 1/ min(標準状態)を上部から下部へダウンフ

ローで流通させ、1.5時間後に出口ガスをよう化カリウム水溶液にサンプリングして、生成した塩素と未反応の塩化水素と生成水を吸収させ、よう素滴定法及び中和滴定法によって、それぞれ塩素の生成量及び未反応塩化水素量を測定した。アナターゼ結晶形Ti〇 $_2$ 担持6.6重量%酸化ルテニウム球形粒状触媒の単位触媒重量及び時間当りの塩化水素反応活性は4.8×10 $^{-4}$ mol $_{-}$ HCl/g $_{-}$ mk媒・minであり、触媒の使用量を1.9g(2.0 ml)、塩化水素0.161/min(標準状態)、酸素0.081/min(標準状態)とした以外は、 α -Al $_{2}$ O $_{3}$ 担持6.6重量%酸化ルテニウム押し出し触媒に準拠にて行った。第1反応域の活性は1.6×10 $^{-4}$ mol $_{-}$ HCl/ml $_{-}$ 反応域・min、第2反応域の活性は3.1×10 $^{-4}$ mol $_{-}$ HCl/ml $_{-}$ 反応域・min、第2反応域の活性は3.1×10 $^{-4}$ mol $_{-}$ HCl/ml $_{-}$ 反応域・min、計算される。

塩化水素を含むガス 6. 1 1 / min (標準状態、塩化水素:99体積%以上)、酸素 3. 0 5 1 / min (標準状態、酸素:99体積%以上)をNi製反応管の上部から下部へダウンフローで流通させ、ジャケット内の溶融塩の温度を326℃として反応を行った。空塔基準のガス線速度は、0.65 m / sec.と計算される。第1 反応域の反応温度は入口332℃、出口335℃、ホットスポット347℃であった。第2 反応域の反応温度は入口335℃、出口338℃、ホットスポット344℃であった。第2 反応域の出口ガスをよう化カリウム水溶液にサンプリングして、生成した塩素と未反応の塩化水素と生成水を吸収させ、よう素滴定法及び中和滴定法によって、それぞれ塩素の生成量及び未反応塩化水素量を測定した。塩化水素の塩素への転化率は30.6%であった。

実施例 2

5

10

15

20

25

反応器には、電気炉を備えた内径 $2.6 \, \mathrm{mm}$ 及び長さ $2.0 \, \mathrm{m}$ のNi製反応管 (外径 $6.\mathrm{mm}$ の温度測定用鞘管) $1.\mathrm{a}$ 本と、溶融塩 (硝酸カリウム/亜硝酸ナトリウム=1/1 重量比) を熱媒体とするジャケットを備えた内径 $1.8 \, \mathrm{mm}$ 及び長さ $2.5 \, \mathrm{m}$ の反応管 (外径 $6.\mathrm{mm}$ の温度測定用鞘管) $2.\mathrm{a}$ 本からなる合計 $3.\mathrm{a}$ 本の反応管が直列に連結された固定床反応器を用いた。内径 $2.6 \, \mathrm{mm}$ の反応管には、直径 $1.5 \, \mathrm{mm}$ の $\alpha-\mathrm{Al}_2\,\mathrm{O}_3$ 担持 $6.6 \, \mathrm{fm}$ 重量%酸化ルテニウム押し出し触媒 $6.9 \, \mathrm{g}$ ($6.0 \, \mathrm{m}$ 1)と直径 $2.\mathrm{mm}$ の $\alpha-\mathrm{Al}_2\,\mathrm{O}_3$ 就 $1.3.2 \, \mathrm{g}$ ($6.0 \, \mathrm{m}$ 1)を十分に混合して充填し、第 $1.5 \, \mathrm{cm}$ 反応域とした。内径 $1.5 \, \mathrm{mm}$ の反応管の $1.\mathrm{a}$ 本目には、直径 $1.\mathrm{c}$

10

15

20

25

7

 $2 \,\mathrm{mm}$ のアナターゼ結晶形 $\mathrm{Ti}\,\mathrm{O_2}$ 担持 6. 6 重量%酸化ルテニウム球形粒状触媒 $3\,\mathrm{O}\,\mathrm{O}\,\mathrm{g}$ ($3\,\mathrm{O}\,\mathrm{O}\,\mathrm{m}\,\mathrm{I}$) と直径 $2\,\mathrm{mm}$ の $\alpha-\mathrm{Al_2}\,\mathrm{O_3}$ 球 $3\,4\,\mathrm{O}\,\mathrm{g}$ ($1\,5\,\mathrm{O}\,\mathrm{m}$ I) を十分に混合して充填し、第 $2\,\mathrm{反}$ 応域とした。内径 $1\,8\,\mathrm{mm}$ の反応管の $2\,\mathrm{a}$ 目には、直径 $1\,\sim\,2\,\mathrm{mm}$ のアナターゼ結晶形 $\mathrm{Ti}\,\mathrm{O_2}$ 担持 6. 6 重量%酸化ルテニウム球形粒状触媒 $2\,9\,7\,\mathrm{g}$ ($2\,9\,4\,\mathrm{m}\,\mathrm{I}$) を充填し、第 $3\,\mathrm{C}$ 応域とした。

触媒充填長は、第1反応域0.21m、第2反応域1.98m、第3反応域1.37mであった。触媒充填体積は、第1反応域103ml、第2反応域447ml、第3反応域309mlで、第1反応域の割合は12体積%と計算される。

なお、 $\alpha-A \ l_2 O_3$ 担持 6.6 重量%酸化ルテニウム押し出し触媒は、実施例 1 に準拠して調製し、触媒の使用量を 4.0 g(3.5 m l)とした以外は実施 例 1 に準拠して測定された単位触媒重量及び時間当りの塩化水素反応活性は、 2.5×10^{-4} mol-HCl/g- minであった。第 1 反応域の活性は 1.7×10^{-4} mol-HCl/ml- 反応域・min、第 2 反応域の活性は 3.2×10^{-4} mol-HCl/ml- 反応域・min、第 3 反応域の活性は 4.6×10^{-4} mol-HCl/ml- 反応域・min、第 3 反応域の活性は 4.6×10^{-4} mol-HCl/ml- 反応域・min と計算される。

塩化水素を含むガス6 1 / min (標準状態、塩化水素:99体積%以上)、酸素1.13 1 / min (標準状態、酸素:99体積%以上)、及び塩素を分離後に得られた未反応酸素を主成分とするガス2.15 1 / min (標準状態、酸素:86.0体積%、塩素:8.9体積%(計算値)、窒素:2.3体積%、アルゴン:2.7体積%、二酸化炭素:0.1体積%)をNi製反応管の上部から下部へダウンフローで流通させ、反応器の入口圧力を1.19kg/cm²-G(0.22MPa相当)とし、電気炉の温度を342℃、ジャケット内の溶融塩の温度を345℃及び332℃として反応を行った。空塔基準のガス線速度は、内径26mmの反応管で0.31m/sec、内径18mmの反応管で0.68m/secと計算される。第1反応域の反応温度は入口322℃、出口343℃、ホットスポット344℃であった。第2反応域の反応温度は入口336℃、出口348℃、ホットスポット362℃であった。第3反応域の反応温度は入口325℃、出口338℃、ホットスポット350℃であった。

反応で得られたガスを冷却し、続いて吸収塔内にフィードした。吸収塔には、

10

15

20

25

純水用タンクと純水フィード用ポンプ、20重量%塩酸フィード用ポンプ及び塔内塩酸の循環用ポンプを設置した。純水は、純水フィード用ポンプを用いて0. 15 kg/h (29°C) で純水用タンクへフィードし、吸収塔へのフィード前に、純水タンク内で吸収塔の塔頂部から得られたガスと接触させた後、タンク内から吸収塔の塔底部へオーバーフローでフィードした。20重量%塩酸0. 355 kg/h (29°C) は、20重量%塩酸フィード用ポンプを用いて吸収塔の上部からフィードし、ガスと向流式に接触させた。塩化水素と水を主成分とする塔内の塩酸の溶液(塩化水素24. 7重量%、塩素:0. 39 重量%)は、循環ポンプで吸収塔の上部に循環させ、ガスと向流式に接触させた。また、該溶液は、循環ポンプ世口から0. 736 kg/hの流量で抜き出した。塔頂部からは、温度は28°Cの常圧のガスが得られた。

吸収塔の塔頂部から得られたガスを硫酸乾燥塔に流通させた。硫酸乾燥塔には、硫酸フィード用ポンプを設置した。硫酸乾燥塔には、硫酸フィード用ポンプを用いて98重量%硫酸 0.145 k g / h を / b / h を / c

発明の効果

以上説明したとおり、本発明によれば、塩化水素を含むガス中の塩化水素を、酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造方法において、触媒充填層の過度のホットスポットを抑制し、触媒充填層を有効に活用することによって、触媒の安定した活性が維持され、かつ塩素を安定して高収率で得ることができる。したがって、本発明の製造方法は、触媒コスト、設備コスト、運転コスト、運転の安定性及び容易性の観点から極めて有利な塩素の製造方法である。

10

15

20

25

•

請求の範囲

- 1. 触媒の存在下、塩化水素を含むガス中の塩化水素を、酸素を含むガスを用いて酸化する塩素の製造方法であって、塩化水素の酸化を、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域において行い、かつ該反応域のうちの少なくとも一つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行う塩素の製造方法。
- 2. 反応管内に少なくとも二種の触媒を充填することによって、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域が形成される請求項1記載の塩素の製造方法。
- 3. 少なくとも二つの反応域の温度を独立して制御することによって、少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域が形成される請求項1記載の塩素の製造方法。
 - 4. 該反応域のうちの少なくとも二つの反応域の温度制御を熱交換方式によって行う請求項1記載の塩素の製造方法。
 - 5. 全反応域の温度制御を熱交換方式によって行う請求項1記載の塩素の製造 方法。
 - 6. 少なくとも二つの直列に配列された触媒充填層からなる反応域の中で原料が最初に導入される反応域である第1反応域の割合が、全反応域の合計の70体積%以下である請求項1記載の塩素の製造方法。
 - 7. 第1反応域の熱伝導度が最も高くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填する請求項1記載の塩素の製造方法。
 - 8. 第1反応域から最終反応域に向かって、ガスの流れ方向に、反応域の熱伝 導度が順次低くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性物質、実 質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填する請求項1記 載の塩素の製造方法。
 - 9. 該反応域に、第1反応域から最終反応域に向かって、ガスの流れ方向に、 反応域の活性が順次高くなるように、実質的に触媒のみ、実質的に触媒と不活性 物質、実質的に触媒と担体、又は実質的に触媒と不活性物質と担体を充填する請 求項1記載の塩素の製造方法。

- 10. 最終反応域の出口のガス温度が200~350℃である請求項1記載の 塩素の製造方法。
- 11. 空塔基準のガス線速度が 0.2~10 m/s である請求項 1 記載の塩素の製造方法。
- 5 12.酸素を含むガスを分割して、反応域に導入する請求項1記載の塩素の製造方法。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00210

	CUELO A TRONI OF CAMP INCT A COMPANY			
A. CLAS	A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER Int.Cl ⁷ C01B 7/04, B01J 23/46			
According	According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC			
	S SEARCHED			
Minimum d Int	documentation searched (classification system followed . Cl ⁷ C01B 7/04, B01J 23/46	d by classification symbols)		
Jits Koka	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1926-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2000 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2000 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2000 Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)			
JOIS	S, WPI/L(DIALOG)			
	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category*	Citation of document, with indication, where a	-	Relevant to claim No.	
X Y	EP, 861803, A1 (AIR PRODUCTS A 02 September, 1998 (02.09.98), page 2, line 3 to page 4, line 2 page 8, Table 1 & JP, 10-251002, A page 3, column 4, line 6 to page age 8, column 14, line 47 to papage 10, Table 2 & CA, 2229993, A & KR, 9807	; page 7, lines 11 to 18; ge 5, column 8, line 31; ge 9, column 15, line 12;	1-5,12 6-11	
Y	EP, 761593, A1 (BASF AKTIENGES 12 March, 1997 (12.03.97), page 7, line 26 to page 8, line page 12, line 57 & JP, 9-118503, A page 6, column 10, lines 10-50; 27 to page 11, column 20, line & DE, 19533660, A & KR, 9701	page 9, column 16, line 18	6-9,11	
Y	WO, 97/11026, A1 (UNIVERSITY O CALIFORNIABASF AKTIENGESELLSCH 27 March, 1997 (27.03.97),		1-5	
Furthe	r documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance earlier document but published on or after the international filing date. "E" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed Date of the actual completion of the international search 28 April, 2000 (28.04.00) "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention cannot be document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family Date of mailing of the international search report 16 May, 2000 (16.05.00)			e application but cited to orlying the invention laimed invention cannot be red to involve an inventive claimed invention cannot be when the document is documents, such skilled in the art amily	
Japanese Patent Office		Authorized officer		
Faccimile No	•	I I - I - I - I - I - I - I - I - I - I	1	

- 1

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00210

Category*	Citation of document, with indication, where accounting of the wile	
	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages page 3, line 32 to page 5, line 16; Fig.3	Relevant to claim No
	Page 3, line 32 to page 5, line 16; Fig.3 & JP, 11-511433, A page 6, line 28 to page 8, line 21; Fig.3 & US, 5639436, A & AU, 9672490, A & EP, 851834, A & NO, 9801288, A	
Y	JP, 10-194705, A (Sumitomo Chemical Company, Limited), 25 July, 1997 (25.07.97), page 3, column 3, lines 14-40; page 6, column 9, line 31 to column 10, line 4 & DE, 19734412, A & US, 5908607, A	6-10
Y	JP, 10-15389, A (Mitsui Toatsu Chemicals Inc.), 20 January, 1998 (20.01.98), page 3, column 3, lines 12-43 (Family: none)	11
į		

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. Cl7 C01B 7/04, B01J 23/46

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C01B 7/04, B01J 23/46

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報

1926-1996

日本国公開実用新案公報

1971 - 2000 1994 - 2000

日本国登録実用新案公報日本国実用新案登録公報

1996-2000

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

JOIS, WPI/L (DIALOG)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	EP,861803,A1(AIR PRODUCTS AND CHEMICALS, INC.), 2.9月.1998,(02.09.98),第2頁第3行一第4頁第2行、 第7頁第11行一第18行、第8頁Table 1 & JP,10-251002, A,第3頁第4欄第6行一第5頁第8欄第31行,第8頁第14欄第47行 一第9頁第15欄第12行、第10頁表2 & CA,2229993,A & KR,98071631,A	1-5,12 6-11
Y	EP,761593,A1(BASF AKTIENGESELLSCHAFT), 12.3月.1997,(12.03.97),第7頁第26行一第8頁第2行、 第11頁第12行一第12頁第57行 & JP,9-118503,A, 第6頁第10欄第10行一第50行,第9頁第16欄第27行一第11頁 第20欄第18行 & DE,19533660,A	6-9,11

X C欄の続きにも文献が列挙されている。

□ パテントファミリーに関する別紙を参照。

- * 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「O」ロ頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 28.04.00 国際調査報告の発送日 16.05.00 国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 中京都千代田区霞が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 3414

)

À

		一一一一	0/00210
C (続き). 引用文献の	関連すると認められる文献		
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは	は、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
	& KR, 97015457, A		7342
Y	WO,97/11026,A1(UNIVERSITY OF CALIFORNIABASF AKTIENGESELLSCHA (27.03.97),第3頁第32行一第5頁第16 & JP,11-511433,A,第6頁第28行- & US,5639436,A & AU,96724 & EP,851834,A & NO,980128	AFT), 27. 3月. 1997, 5行, Fig. 3 -第8頁第21行, Fig. 3 190 A	1-5
Y	JP,10-194705,A(住友化学工業株式会(25.07.97),第3頁第3欄第14行-第40- -第10欄第4行 & DE,19734412,A & US,5908)行、第6頁第9欄第31行	6-10
Y	JP, 10-15389, A(三井東圧化学株式会社(20.01.98), 第3頁第3欄第12行-第43	社),20.1月.1998 3行(ファミリーなし)	11
		;	
		·	
			į